

歯科医院経営・支援情報誌

私の街の 歯医者さん

- 特集「ネット時代の歯科医療を考える」
- 二足の草鞋をはいた歯科医



Cover Story

Dr. Frank Celenza Jr.

Dental Practice Management Supporting Magazine

Dentist IN MY TOWN



No.18

2000
September

JAPAN SCIENCE
ジャパンサイエンス

フランク・セレンザ

Dr. Frank Celenza Jr.

教授

【略歴等】

- 1957年 ニューヨーク州ロングアイランド生まれ
- 1979年 ニューヨーク州立大学バッファロー校（生物学学位）卒業
- 1983年 モントリオール・マクギル大学（口腔外科博士）修了
- 1986年 ペンシルバニア州立大学（歯周病学学位）修了
- 1988年 ニューヨーク州立大学（矯正学学位）修了。同年、共同開業
- 1995年 個人開業

●ニューヨーク州立大学歯学部インプラント学科・準教授および矯正学科準教授。歯周病・補綴専門医。ニューヨーク市開業



矯正と審美を極めた、包括治療の世界的権威

咬合の権威フランク・セレンザの長男で、次世代を担う歯科界のリーダーとして注目を集めているセレンザ Jr. 教授。世界に数名しか存在しないと言われるダブルディグリー、すなわち、歯周病学と矯正学の両方の学位を持つ世界的歯科医だ。ニューヨーク州立大学では10年間教鞭を執り、国際的な講演者としても活躍する。

ニューヨークに開業して約13年になるが、主に16歳以上の成人を対象にした矯正治療のノウハウが豊富で、あらゆる矯正治療の方法を駆使して患者のいかなる要求にも応えることで知られる。

成人向け矯正治療については、教授のホームページ (<http://www.citysearch.com/nyc/celenza>) でも「成人になっても矯正治療ができるのか疑問に思



■セレンザ教授のホームページ

う方は多いかもしれません。従来より、矯正治療は主として小・中学生を対象に行われてきましたが、もちろん成人にも矯正治療は可能です。貴方も貴方の思っている理想の歯を手にすることができます」と呼びかけ、次のQ&Aを掲載する。

(1) 矯正治療には年齢は関係ありますか？

年齢は全く関係ありません。高齢であっても健康な歯であれば治療は可能です。ただし歯周病の場合は、矯正治療の前に歯周病治療が必要です。

(2) 矯正治療の治療期間が長すぎませんか？

私の経験からして平均6~9ヶ月位かかります。簡

単な治療ならもっと短くて済みますが、6~9ヶ月がそれほどの長期でしょうか？ 私の治療法は「どのような治療をすれば早く完璧な状態になるか」を見定めた上で治療にかかりますので、初診の時に治療期間や治療後の歯の状態を把握できます。

(2) 矯正治療は痛くありませんか？

接合器具による不快感の二大要因を排除することに成功しました。従来よりもブレースの配置がシンプルでジェントルになり、器具保護の為のメタルバンドも必要ありません。つまり、接合器具の不快感がなくなるとともに、外見も見苦しくなく、衛生上もより良い治療が可能です。

(3) 矯正治療は歯に悪影響を及ぼしませんか？

昔ながらの矯正治療では手入れを欠かすと虫歯になります。今日の矯正治療は衛生的にもはるかに優れています。また矯正治療は、審美治療のように人工的素材を使った処置とは異なり、患者の歯を自然のまま活かして処置できます。

(4) 治療費は高くありませんか？

綺麗で健康な歯になりたいと思えば、矯正治療はさほど高い治療ではありません。ベニヤ治療は1ベニヤにつき1500ドルかかります。ベニヤ治療は、通常、複数歯（6~10本程度）の治療が必要ですので全体としてはかなりの高額になります。これに対し、矯正治療は全部で6000ドルで、場合によっては、上顎または下顎だけの治療で済むケースもあります。それを考えると自分の歯を削る必要もなく、健康な歯を綺麗にする矯正治療のほうが、理にかなっていませんか。



田代社長と握手するセレンザ教授



当日は約100名が参加した

今年5月21日、ジャパンサイエンスは「診ナビ」発表記念の特別企画第一弾として、セレンザ教授による講演会「21世紀の審美歯科」を行った。

その際のインタビューの様態と講演要旨を紹介しよう。

○インタビュー要旨

(国際デンタルアカデミーにて)

■なぜ歯周病学と矯正学の両方を学ばれたのですか。

教授：父も兄も補綴専門の歯科医です。特に、兄とは仲が良く、お互いに「将来一緒に働けたら」と思っていました。そこで、私が学生の頃、兄とは違う技術を専門にしようと思いました。兄も同じ意見で、将来一緒に働くなら、違う分野を専攻した方が広範囲の治療ができると考えました。補綴学と歯周病学が対称的であることを知り、歯周病学を学ぼうと決心したのです。

ペンシルバニア州立大学で歯周病学を学んでいた時、歯の移動技術等の矯正学も同時に学びました。その時に歯周病治療と矯正治療には深い関係があることを知り、その後、ニューヨーク州立大学で矯正学を学ぼうと決心しました。私自身、二つの学問的視点を臨床に役立てていきたいと思っています。

■日本では審美歯科が医学的に軽視されている感がありますが、アメリカでの事情はいかがですか。

教授：現在の日本の歯科事情については詳しくありませんが、私はどこの国でも、今後の歯科医療には矯正治療が不可欠だと考えます。虫歯や歯周病等の疾患が減って、庶民の審美歯科への関心が高まり、また審美歯科市場は急速に成長しています。歯科医師の技術向上とアメリカ市民のデンタルIQ向上がこのよ

うな結果を生んだと言っても過言ではないでしょう。

また、矯正治療は低年齢者を対象に行われる治療と思われがちですが矯正治療には年齢は関係ありません。私の医院では成人対象の矯正治療を行っていますが、どのような状態の歯でも矯正治療でき、患者の希望通りの歯を実現できます。

■先生のお父さんは咬合学の世界的権威ですが、歯科医への志望について、お父さんの影響があったのでしょうか。

教授：勿論、父の影響は大でした。幼少の頃から、咬合学を広めていく父の姿を見たり、兄が父の跡を継いで歯科医として活躍するのを見て育つうちに、私も歯科医になりたいと思い始めました。父や兄とは違う分野ですが、私も独自の矯正学を世界的に広めていきたいと思っています。

○講演要旨

(東京アメリカンクラブにて)

現在のアメリカ歯科界は大きく変わりつつある。もはや機能回復のための歯科治療の時代は終わりを告げ、審美歯科・予防歯科への需要が急速に高まっている。最終的な治療成果をより良いものにするために、専門分野に特化された歯科医によるチーム医療が求められるようになった結果、昨今のアメリカの歯科治療は高いクオリティを実現するに至った。

このような包括的治療の必要が高まる現状の中で、私はペリオと矯正という一見かけ離れた技術を、いかに結合して修復歯科に役立ててきたかを紹介する。

従来の方法では、修復はできても審美的には問題のあるケースが多かった。歯周治療の結果、審美上



「診ナビ」のバーチャル・マウス（印刷画像）に驚く教授。“素晴らしい”を連呼



講演会場に展示された「診ナビ」デモ機を興味深そうに操作する教授

の問題が生じてもやむを得ないものとして片づけられてきた。しかし、近年ではペリオの分野でも歯周整形外科的治療が試みられるようになった。

外科手術の前に矯正治療をしておくことによるメリット（審美性の向上）については、1940年代より研究報告があった。

歯を呈出させていくと、歯牙が移動するにつれ骨や歯周縁辺の組織も変化していく。このように強制力によって骨が新たに形成される特色を、審美治療にも活かそうと考えた。これを応用すると、矯正的な抜歯、つまり、抜歯による歯のリモデリングも可能となる。この矯正力による審美治療は真の意味での「インテグレーション」の点で、従来の骨移植やインプラントによる方法よりも優れた方法である。

また、傾斜した歯をアップライトさせる方法も、新しい骨の生成を促し、組織の形態を変えることが可能である。

それでは、失われた軟組織を再生することはどうであろうか。外科的措置によって歯間乳頭を再生することは出来ないが、強制力を使うことによって再生ではなく、再生したように見せかけることは可能である。ただし、そのためには歯間部の接点から骨縁までの距離が5mm以内であることが重要であり、歯間乳頭には一定の量が必要である（ターナー説）。

しかし、このような治療方法は一人では極めて困難であり、そのためには各分野の歯科医がチームを組むことが大切である。

さらに、近年ではインプラントを用いた新たな矯正治療が始まっており、今後、強制力を用いた審美治療はこの方向に進むであろう。すなわち、アンカ

レジにインプラントを活用する方法である。もしこの試みが成功すれば、矯正医は患者の協力を頼ることなく歯牙移動を完全に制御できる。ある一定限度内であれば、この方法により歯牙移動を一層早めることが可能になる。

これには直接的なアンカレジの方法と間接的なアンカレジの方法があるが、さらに新しい方法として口蓋骨へのインプラントで臼歯部を安定させる方法も開発された。そのうち、骨膜下インプラント（オンプレメント）はあまり成功しておらず、それよりは、口蓋中央部への骨内インプラント（オルソインプラント）の方が有効である。

後者の方法は切開と縫合の必要が全くなく、非常に安全かつ安定した方法で、このような方法が矯正治療に活用できるようになったことは革命的な意義を有する。これにより、下顎への矯正装置が不要となり、患者の協力を依存することもなくなった。すなわち、オルソインプラントには次のようなメリットがある。

- ①新しい治療の可能性が広がったこと
- ②患者の協力を依存する必要がなくなること
- ③インプラント植立が容易であること
- ④矯正に用いられるメカニクスを簡素化できること
- ⑤治療期間を短縮できること

いずれにしても、今回ご紹介した治療方法は、生体が持っているデフォルミングの能力を上手にコントロールしながら使っていく治療であり、さらに歯牙移動の限界を超えた新しい治療方法である。

*以上は、当日の同時通訳をもとに編集部責任において要約したものです。